

令和 7 年度 霧島市ふるさと創生有識者会議

開催日時		令和 7 年 11 月 20 日（木）14:00～16:00			
開催場所		霧島市役所 701 702 会議室			
出席者	委員	本田 泰寛 委員長、鶴ヶ野 未央 副委員長、本田 達郎 委員 森蘭 かおり 委員、黒崎 光生 委員、今村 健二 委員、島名 賢児 委員、 安水 学 委員、山口 慶子 委員、村上 和 委員、田間 美沙緒 委員 （全 15 委員中 11 人が出席）			
	霧島市	地域政策課：今村 主幹、美坂 主幹 市民活動推進課：金丸 市民活動推進課道義高揚推進室長 保健福祉政策課：安田 グループ長、大浦 室長 健康増進課：坂口 主幹 子育て支援課：米元 主幹 農政畜産課：唐鎌 主幹 商工振興課：山口 特任課長、川野 主幹 観光 P R 課：海江田 主幹、大保 主幹 建設政策課：中村 主幹 教育総務課：山内 主幹 D X 推進課：三善 課長			
	事務局	藤崎 企画部長、野村 企画政策課長、瀧間 主幹 山中 企画政策 G サブリーダー、永田 主任主事			
公開・一部非公開又は非公開の別		公開	傍聴人数	0 人	
会次第					
1 開会					
2 企画部長あいさつ					
3 委員の自己紹介・あいさつ					
4 議事					
(1) 国及び霧島市の地方創生の取組について 資料 1・4					
(2) 第 3 期霧島市ふるさと創生総合戦略の取組（2 年目）について 資料 1・2					
(3) 「新しい地方経済・生活環境創生交付金（デジタル実装型）」の活用について 資料 3					
5 その他					
6 閉会					
議事等の概要					
議事 ④：委員 ⑤：事務局					

4 議事

(1) 国及び霧島市の地方創生の取組について

→事務局（企画政策課）が資料1の2～11ページ、資料4に基づき説明

園 質疑なし

(2) 第3期霧島市ふるさと創生総合戦略の取組（2年目）について

→事務局（企画政策課）が資料1の12～35ページに基づき説明し、3回に分けて質疑

①基本目標1 訪れたいまち

園 移住の相談者の年代と相談者が霧島市を選ぶ理由を知りたい。

● 30代から50代が多い。市街地は様々なお店があり、買い物に困らないという点が魅力である等の意見をいただくことがある。

園 霧島市への移住をやめた理由を知りたい。

● 本市に移住をした方では、本人の仕事や子どもの都合等の理由で市外へ転出をする方がいる。

園 移住を決断する際には、安定した職があるかどうかが大重要であるとする。

● 移住イベント等には、職（仕事）に関する相談にも対応できるよう霧島市地域雇用創造協議会の職員も参加してもらい、職（仕事）も含めて霧島市の魅力を発信している。

園 移住する際に、学校や医療、仕事、住まいのことなど、オールマイティに相談の対応ができるコンシェルジュのような人を配置することを検討してもいいのではないかと。また、留学生等の海外からの移住者が働ける環境づくりをすることも大重要であるとする。

● AIコンシェルジュのような方法も考えられる。オープンデータによる様々な情報の提供など、次期総合戦略策定における検討材料としたい。

園 リモートで仕事ができるような環境を整えることも有効とする。具体的になにか取組をしているか。

● 東京圏から移住して、移住前の仕事をテレワークで引き続き行っている人で、一定の要件を満たす方に対して、移住支援金を支給している。

②基本目標2 住み続けたいまち

園 20 年ほど前に現在の中山間地域へ移住してきたが、その際には移住への支援は無かった。温泉や国宝、みやまコンセール等の素晴らしい施設のある地域だが、今後 20 年後に、この地域の生活に不安はあり、農業などによる若者の移住などを期待したい。霧島市の魅力や価値を見出してくれるようなコンシェルジュのような人を配置すべきであると改めて感じた。

㊦ 移住体験ツアーやオーダーメイド型ツアーを実施しており、移住体験ツアーでは、実際に移住を検討している人の要望を聞き、サツマイモ収穫体験や希望する空き家の内見等を行っている。オーダーメイド型移住ツアーでは、山村留学の希望があれば、直接学校等に行ってお話をしていただくことも可能である。ツアーを通して魅力を感じた人が多かったため、移住者数の数値が上がってきているのではないかと考える。

園 山間部の子どもたちの教育の環境を守る必要がある。また、住んでいる地域に M ワゴンが来ない、タクシーや路線バスがあまり通らない不便な地域があるという声がある。市民の移動手段の確保のため、M ワゴンを広く普及する、路線バスを増便するなどの考え方があるのか。

㊦ 中山間地域の児童生徒数の減少は著しく、小規模化が進んでいる状況である中、地域や保護者等の代表が集まり、公立学校あり方等検討委員会を開催し、協議を行っているところである。閉校により地域の活性化が図られなくなるのではないかと、少人数であるため P T A 活動の負担が大きい等の意見があり、今後も協議を行い、小中学校のあり方や地域の活性化等の様々な問題に対して、慎重に検討していく。

㊦ 本市でも全国的に大きな問題となっている運転手不足により、バス等の公共交通を維持することが難しい状況となっているため、運転手確保支援事業を昨年度から実施し、公共交通の維持確保に努めている。「きりしま M ワゴン」については、交通渋滞による遅延等の問題がある市街地循環バスの代替手段として令和 5 年 11 月から運行しており、先ずは、市街地循環バスの運行エリア内を優先して拡大を図る予定としている。今後についても、運転手の状況や地域の実情等を鑑み、公共交通の見直しを行っていく。

園 タクシーの運転手不足が顕著ではある。また、補助金による支援も活用しながら運転手が少しずつ増えてきている。事故のない信頼される運転手を育てていきたい。

霧島市はパートナーシップ宣誓制度を開始しているが、何が移住の決め手になるかわからないので、突出したアドバンテージのようなものがあれば、霧島市の特徴の一つとなり、移住者をもっと増やせるのではないかと思う。

園今年は線状降水帯の影響で大きな被害を受けた。将来に向けて災害に強い、安心して暮らせるまちづくりをしていくことが必要である。子どもを産み育てやすい地域づくり等についても、全国の行政ではほとんど同じ取組をしているため、他とは違う、突出して魅力的な事業をすることが霧島市の強みとなるのではないかと考える。また、将来を見据えて、ドライバーや医師、教育等の必要な人材が不足していくことが予測されるため、業界を越えて資格取得の奨励をする等の市全体の対策が必要になってくると思う。人口減少も進む中で、様々な工夫を施し、施策についても特色化や魅力化を図ると良いと思う。

●人口減少対策について、貴重な意見を聞くことができたため、次の戦略につなげていきたい。また、霧島市を移住先として選んでいただくにあたり、子どもを育てやすいという口コミが広がっていくことも大切であると考え。子育てについて重点を置く施策展開が必要だという意見をしっかりと受け止めたい。

園中山間地域の夕方のスクールバスの運用について、朝は小中学生が通学で利用できているが、夕方は時間带的に小学生が利用できない地域があり、子育て世代の負担になっているということをその保護者から聞いている。共働き世帯も増える中、スクールバスの運用の仕方による子育て支援もあると思います。

③基本目標 3 働きたいまち

園若者の都市流出は続くが、霧島市で働くことの魅力のPRは今後も続けていかななくてはならない。給料だけでなく、生活環境や住みやすさ等のその魅力の一つとして学生にPRしていく等の活動も必要であると思う。企業側も霧島市で働く魅力を発信し、学生たちに理解してもらえるよう粘り強くPRを続けていきたい。

園地元志向の学生も多く見受けられるが、学生の意向と現実とのギャップがあり、そのギャップをどう埋めていくかが大事であると考え。Uターンを考えているが、自分の技術に見合った就職先が見つからないという人が一定数はいることも考えて、マッチングできるような仕組みを作ることも重要ではないかと思う。

園企業からの求人が非常に減少している。求職者数についてはわずかに減少している。有効求人倍率はハローワーク国分に限って 0.92 倍で 100 人に 92 件しか求人がない状況で県の平均は 1.05 倍となっている。12 月くらいから企業宛てに商工会議所を

通じて、リーフレットを配布し、求職者にはハローワークの認知度がまだ少ないと感じているため少しずつアピールしていきたい。

園鹿児島黒牛は、宮崎牛や佐賀牛より、アピールが足りないと県レベルで話になっている。そのため、所属している、「始♡LOVE和牛女子」でもPRをしている。和牛等の消費拡大のため、今年度は農林水産フェスも実施してもらい非常にありがたい。稼ぐ力の向上という意味で、今後も引きつづき行政のほうでも消費拡大のためのPRをお願いしたい。

(3) 「新しい地方経済・生活環境創生交付金（デジタル実装型）」の活用について

→ 資料3に基づき説明。

☒ 質疑なし

5 その他

18歳～20歳の若者が流出する中で、霧島市に大学がある意義はとても大きい。第一工科大学と市が連携して、大学が力を入れているデジタルサイエンス等にも目を向けて注力することで、霧島市ならではの魅力ができるのではないかな。

総合計画の見直しについて、10年間で振り返るなど、3期5年の短期的な振り返りだけでなく、長期的に見て、KPI等の数字がどう推移してきたかをみると、効果があった無かったがわかり、次の5年にどんな施策を打ち立てればよいか等が見えてくるのではないかと考える。また、戦略を立てる場合、現状課題解決型が非常に強い傾向ではある。学生が描いた本市の総合計画の表紙は、10年後の霧島市の未来予想図が描かれている。このような未来の理想的な状態を起点として、逆算して計画を立てる思考（バックキャスト）を取り入れることも大事なのではないかな。

会議資料	会次第
	資料1 霧島市ふるさと創生有識者会議
	資料2 第3期霧島市ふるさと創生総合戦略（令和6年度）KPI一覧
	資料3 「新しい地方経済・生活環境創生交付金（デジタル実装型）の活用について」
	資料4 地方創生2.0「地域課題」ダッシュボードβ版 ～鹿児島県霧島市～